

2025年12月24日

関係各位

公益財団法人日本体操協会
体操競技男子強化本部
審判委員会体操競技男子審判本部

体操競技男子 FIG ニュースレター(NO.3)発行に伴う国内適用について

WORLD GYMNASTICS [旧FIG] (国際体操連盟) は2025年12月18日に公式ホームページ上にてニュースレター(NO.3)【2025年12月】を掲載し、修正点や新しい情報を公開しました。

強化本部および審判本部では、ニュースレター(NO.3)の内容を精査、翻訳したものを公開しました。なお、この掲載のある情報に関しては全て 2026年1月1日より国内にて適用することといたします。

次頁以降に掲載されている内容を理解し、強化および審判活動にお役立ていただければ幸いです。

原文

【WORLD GYMNASTICS ニュースレター (NO.3)】公式サイト

http://www.fig-docs.com/website/newsletters/MAG/2025/MAG_NL_3_en.pdf



体操競技男子 WORLD GYMNASTICS ニュースレター №.3 (2025年12月)【日本語翻訳版】

ローザンヌ(スイス) 2025年12月1日

男子体操競技関係者の皆さま

直近に開催されたジャカルタの世界選手権とマニラで世界ジュニアでは、すべての種目において高い競技力と素晴らしい演技が見られました。男子技術委員会(MTC)は、選手とコーチの驚異的なパフォーマンスと献身に対し、祝意と感謝を申し上げます。

審判員とコーチ間の会議において、MTCは今サイクルの採点規則における主な変更点と、採点の公平性を向上させるための原則の適用方法について概説しました。演技構成を8技に削減したことによる利点について議論しましたが、同時に第7.4.2条において期待される事項について再確認しました。すなわち、選手は安全で、かつ高度な技術的習熟度を持って実施できる技のみを演技に含めるべきであるということです。ニュースレター#02(NL2)でも行ったように、今後も技術的習熟の定義に焦点を当て、これを審判支援システム(JSS)や教育資料に組み込んでいきます。

また、第7.4.6条の変更についても強調しました。いかなる場合においても、D審判は体操競技の常識に基づき、競技の利益にかなう判断を下さなければなりません。以前の採点規則規則(第5.1.c条)では、「疑わしい場合は、選手の有利になるように判断する」と強調されていました。これは不正確な判断となる場合も多く、結果として不公平な得点につながりました。今後は、疑わしい場合には認定を行わず、コーチによる問い合わせ(インクワイアリー)の機会を残すよう、審判員に指示が出されます。

本ニュースレターに記載されたMTCの決定事項は、2026年1月1日から有効となります。また、次のニュースレターは、ワールドカップシリーズ後の2026年7月を予定しています。

1. 2025年版採点規則の明確化

終末技

終末技の難度が、潜在的な安全上の懸念が生じるレベルにまで進歩していることが明らかになった。FIGの理事会は、あん馬、つり輪、平行棒、鉄棒の終末技におけるグループ点(EG)の加点に対し、最大0.5という上限を設けることを承認した。具体的には、グループ点は実施された終末技の難度価値点と同じになるが、0.5が上限となる。(A=0.1、B=0.2、C=0.3、D=0.4、E=0.5、F以上も0.5)。これにより、他のグループ点との整合性をとることができ、高難度の終末技を行うことで「二重の利益(難度点と高いグループ点の両方を得ること)」を得ることを防ぐ。

ジュニアの3回宙返り

各大陸の技術委員会およびコーチとの協議を経て、MTCは終末技に関する規則の変更がジュニアの演技構成に与える影響を検討した。その結果、選手の安全を考慮し、ジュニア選手のすべての3回宙返り技に「赤丸(禁止技)」を適用することを決定した。これには、ゆかのすべての3回宙返り技と、すべての種目の3回宙返り下りが含まれ、これらは禁止技となる。



着地加点 (SB) の明確化

世界ジュニア選手権では、実施された 843 演技のうち、108 回着地加点が与えられた。着地加点に関する問い合わせ（インクワイアリー）は 22 件あり、そのうち 10 件で得点が変更された。

着地加点(SB)の判定において、バランスを保つために、かかとまたはつま先を上げた場合、加点は与えられない。

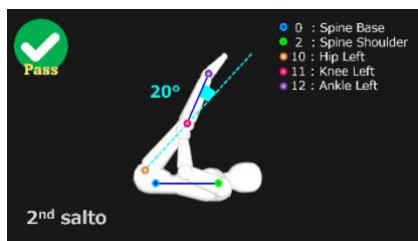


低い着地に関する明確化

歩く、低い着地、転倒といった着地に伴う減点の合計は、最大 1.00 である。ただし、着地の準備不足や脚を開くなどの他の減点は別途適用される。

前方屈身2回宙返り

前方屈身2回宙返りで難度が認められるには、2回目の宙返り中に背中が地面と水平になるまで、膝をのばして（膝のまがりが 45° 以内）に保つ必要がある。この技には、審判支援システム（JSS/富士通）で定義された[詳細な説明](#)がある。



Floor Exercise ゆか



異なるコーナー移動

すべてのコーナーでの移動は、互いに異なるものでなければならない。同じ動きを繰り返した場合、D審判によって 0.30(1 回のみ)のNDとなる。ターン、接転系の技、のばした脚またはまげた脚でのジャンプ、片膝立ちの姿勢など、様々なバリエーションを独自性のある移動として認めることができる。



1回ひねりを伴う鹿ジャンプ

1回ひねり、または1/2ひねりを伴う鹿ジャンプのすべてのバリエーションは、ジャンプ/リープの要求を満たせない。



Pommel Horse あん馬



倒立下りの部分認定

倒立下りの実施中に、倒立には達したがその後のひねりや移動で大きな過失を伴った場合、倒立までの技としての価値は認められるが、ひねりや移動による価値は認められない。



倒立への複合技

2回以上の旋回を伴う技を、倒立と組み合わせて終末技の難度価値を上げることはできない。フロップやコンバインなどの倒立への持ち込みは、2つの技として扱われる。

例) DSA 倒立下り C

ベルトンチェリ倒立下り D

一把手上旋回、DSA 倒立下り 2技 B+C

DSB～DSB～一把手上旋回～一把手上旋回、DSA 倒立下り 2技 E+C

旋回1回ひねり～倒立下り 2技

ピネーロ～倒立下り 2技



Rings つり輪

手を開いた静止姿勢

手を開いた状態での静止姿勢において、手首が輪の上に乗っている場合は「深い握り」として 0.10 の減点対象となる場合がある。



減点 0.10



減点なし



Parallel Bars 平行棒



構成上の欠点

とびについて脚前拳支持、および腕支持から跳ね起き支持は、構成上の欠点として 0.30 の減点となる。



棒下宙返り支持

棒下宙返りから支持への持ち込みは、水平またはそれ以上の高さで完了しなければならない。水平より 45° までは、小欠点-0.10、 45° を超えて下回ると中欠点-0.30 となる。



バブサーヤモイでのマットへの接触

バブサー系やモイ系の技でマットに足がぶつかった場合、不認定となる。



ヒーリーにつなげる技

ヒーリーにつなげる技(マクーツなど)において、ヒーリーの前に手の握り替えが 1 回のみの場合は、1 つの技とみなす。ヒーリーの前に手の握り替えが2回ある場合は、2つの技として判定する。

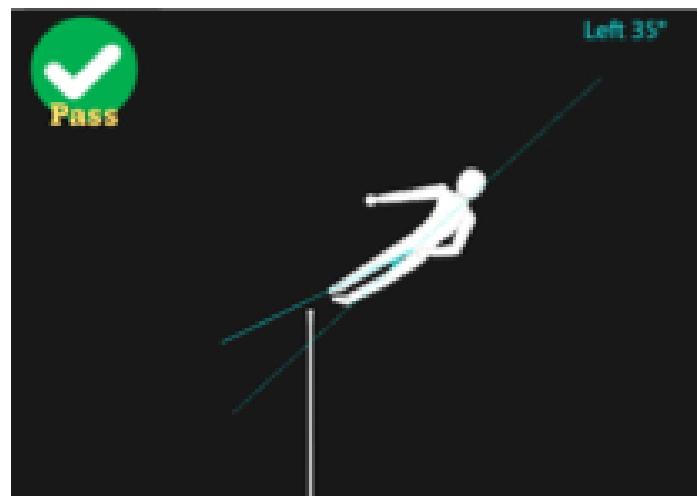


Horizontal Bar 鉄棒



ワインクラー / ポゴロレフ (II.42)

ワインクラーやポゴロレフ(II.42)は、足がバーの最も近くを通過するまで真っすぐな姿勢で実施しなければならない。バーを通過する前に体が 45° を超えてまがっている場合はD難度となり、「あいまいな姿勢」による 0.30 の減点が適用される。





手放し技の認定に関する明確化

2025 年版採点規則では、落下する前に明確な懸垂姿勢が示されれば、常に手放し技の価値は認められる。明確な懸垂とは、両手で再びバーをつかみ、真下を通過するコントロールされたスイングが示された状態を指す。片手でバーをつかみ、そのまま演技を中断することなく続行した場合も、手放し技として認定される。また、手放し技は両手同時にバーから手を放す必要があり、片手ずつ放した場合は 0.10 の減点となる。



クーストから片手車輪

クースト片手支持から後方片手車輪へつなげる動きは、クーストが両手でバーをつかんで終わらないため、認定されない。

2. 新しい技の認定

FIG MTC は、2025 年に新しい技が実施され、成功したことを確認し、以下の技を各選手の名前と共に新しい技として認定する。男子選手は、公式 FIG 競技会で新しい技を成功させた場合、難度認定 (C 難度以上) がされ、その技に自身の名前が付与される可能性がある。

あん馬

ハムレット・マヌキヤン (アルメニア)



- ベルトンチェリからダフチャン
- F 難度
- 2025 年パリ (フランス) で開催されたワールドチャレンジカップで発表された。
- 技名: マヌキヤン

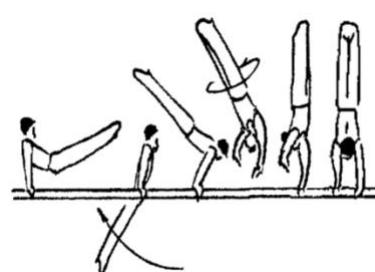


平行棒

ステファノ・パトロン (イタリア)



- 後ろ振りとび 3/4 逆ひねり单棒倒立 (とび動作が 3/4 に満たない)
- C 難度
- 2025 年コトブス (ドイツ) で開催されたワールドカップで発表された。
- 技名: パトロン2



Respectfully,

Andrew TOMBS
MTC President


Butch ZUNICH
MTC Secretary
